



daitobo 特別対談

代表取締役社長執行役員CEO

山内 一裕

メイクアップアーティスト

MOTOKO



真田広之さんの受賞で話題のエミー賞(テレビ界のアカデミー賞と言われる賞)ですが、これまでも日本人が受賞したケースがあります。今回は、2021年・2022年の2年連続エミー賞受賞のメイクアップアーティストMOTOKOさんをゲストにお招きし、山内社長と対談していただきました。

MOTOKO プロフィール

ハリウッドを中心に、活動を続けるメイクアップアーティスト。エミー賞のメイクアップ部門(デイトイム)で2021年・2022年の2年連続受賞。マライア・キャリーのプライベート時のメイクを6年間担当するなど、ハリウッドセレブからの信頼も厚い。

こんにちは。私は、一人の日本人女性が、1990年代のアメリカに乗り込んで、ハリウッドでメイクアップアーティストとして活躍されていることに感服しています。その行動力にも大いに刺激を受けます。MOTOKOさんの活躍の原動力は何なのでしょう。

私は日本と米国で銀行員として通算11年間の経験があるのですが、同僚のメイクをすることが好きでずっと続けていました。その後、ある人に背中を押されて、本場ハリウッドでメイクアップの学校に通い始め、気が付いたら、人にも恵まれ、ついにはハリウッドで職を得るまでになったのです。振り返ると、私の原動力は、「好きなことを諦めずに続けること」に尽きると思います。私は、諦めが悪い性格なのです。



夢を叶えることができる人は、ほんの一握りの人だと思います。MOTOKOさんは、今も、キラキラ輝くオーラを感じますよ。ダイトウボウは、毛織物を輸入品に頼っていた時代に、初めて国産の毛織物を

製造した会社で、経営理念の一つである「進取の精神」は、創業の精神そのものでもあります。MOTOKOさんが単身ハリウッドに乗り込んだチャレンジ精神は、当社の「進取の精神」に通じるものを感じました。

御社は業歴も長いんですね。先ほど、再来年は130周年になるとお聞きしました。私は、一つの「好き」を突き詰めてきたと思っているのですが、業歴が長くなると、事業の中身も変化していくではありませんか？

企業の寿命は一般的に30年と言われており、時代の変化に対応できなければ長くは生き残れないということです。長く生き残っている企業は、すべからく時代の変化に応じて事業構造を変化させてきています。その変化のエネルギーの源泉が「進取の精神」であると思っています。

そうですね。メイクアップ技術も変化しています。加えて、メイクアップで大切なことは、人それぞれの骨格が違うように、個性を引き出すことだと思っています。ハリウッドでは、さまざまな人種や顔立ちの人に合わせて、それぞれの魅力を最大限引き出すようにしています。人によって、ファンデーションを何種類も使用したり、メイクの仕方や順番までも変えることがあります。メイクアップアーティストとして、多様な人たちの、それぞれの個性を表現すること



社員向けのミニセミナーも開催し好評でした

で、美しさを引き出すことが一番良いと考えているからです。

たしかに、日本にいと常に流行に追い立てられるような気がしますが、おっしゃるように個性を大切にすると考えると、心に余裕ができるような気がします。

企業の場合は、経営理念が骨格として普遍的に受け継がれる一方で、時代の変化に柔軟に対応していくことで、その個性や多様性を発揮しているのではないかと思います。

当社は、睡眠を通じて健康長寿の社会作り貢献すべく、現在ヘルスケア事業を成長分野と位置付けて推進しており、ヘルスケアという観点から、「美と健康」は非常に関係が深いと思っています。

「美と健康」という観点では、例えば、私は、がん患者さんのメイクをすることがあります。いつも思うのは、メイクアップすることで、皆さんが心から嬉しそうにしてくれることです。メイクアップは心の癒しに繋がると思いま

す。そういう意味で、美しくあることは健康に欠かせない要素の一つだと感じます。

おっしゃる通り、ヘルスケア事業でも、美容に関心のある人は健康にも関心が強い方が多いと思っており、「美と健康」というテーマは、健康長寿の社会作りと密接に関連すると思います。

私は、いくつかのコスメの企画に関与し、健康で美しい肌を作ることにも力を注いでいます。そうしたトータル的活動が、「Beauty & Health」(美と健康)に大いに関係があると思っています。今後もお役に立つことがあればご相談ください。今回は貴重な機会をありがとうございました。

MOTOKOさんのお話を活かして、ヘルスケア事業のさらなる発展に繋がりたいと思います。こちらこそありがとうございました。



エミー賞の授賞式にて